

## 体験談

文教育学部 交換留学生

張橋心(台湾)

日本に来たばかりの時に、一番不安を感じたのは大学の授業についていけるかどうかということと、日本での生活に慣れることができるかどうかということでした。お茶の水女子大学は留学生への支援や学生と学生との交流に取り組んでいるので、留学生相談室と学生センターで留学生向けの相談、宿題やレポートなどの添削をしてもらえ、授業への不安と負担はかなり軽くなったと思います。

留学生向けの授業があるので、日本での授業のやり方にまだ慣れていない時でも、自分の日本語能力を高めることと、日本(特に東京)に関する知識を得るのに役立ちました。日本語のレベルに自信が持てれば、学部の授業を聴講してみてもいいし、授業に余裕があり、経済面でも余裕があれば、興味があるサークルに参加してもよいと思います。ですが、サークルに参加すると、毎週八科目だけでもかなり大変なので、時間管理はとても大切です。

生活面では、日本に来たばかりの時に、特に最初の一週間で生活用品を揃えるのが少し大変でした。しかしながら、退寮した人が残っていたものがよく役に立ちました。すべてもらえるわけではないですが、炊飯器や電子レンジもあったし、寮の周辺にも商店街があり、ネット上で買ってもよいので、この部分に心配はいらなと思います。

また、日本の食べ物や気候などは自分の国と違います。料理を作ることが好きならば、寮で他の学生に自分の国の料理を教えたり、異国料理の作り方を教えてもらったりして、交流する機会が得られます。また、日本人の学生だったら、日本での行事食や家庭料理を実際に作ったり食べたりすることができると思います。更に、よく日本のゴミの捨て方が難しいと言われていますが、ごみの捨て方が母国の習慣と違って、きちんと説明を読んで、分からない部分をよく聞けば、それ程難しくないはず。ゴミを正しく分別しないと、寮にも業者にも迷惑をかけることになります。

留學生活が楽しいといっても、つらい部分もあります。日本での生活に慣れるまでのホームシックと新しい人間関係を作らないといけないというプレッシャーが、人によってあまりないタイプと結構感じるタイプがいます。相談室の先生には言えないかもしれませんが、家族や親友に言ってもいいと思います。辛さを感じないほうがいいと思っているかもしれませんが、実はこの辛さはとても大切です。辛いからこそ、色々なことを考えたり、気づいたりして、自分の成長につながります。

最後に、留学が終わっても、留学期間にできた人間関係やこの期間にできた思い出は、一生貴重な財産となります。外国人が日本で暮らすことは、容易なことではありません。せつかく日本に来たので、様々な人と出会い、日本でしかできない貴重な体験を得て、笑っても泣いても、悔いのない一年間を過ごせばいいと思います。

